



<プログラム>

指揮 千葉了道

1. 混声合唱 日本の花 大木惇夫 作詩
荒地野菊
桔梗
石楠花
茶の花
梨の花
百日紅
胡麻の花
2. 混声合唱組曲 「焰の歌」 藪田義雄 詩
ピアノ 海老原 彬 子
プロローグ
焰の歌Ⅰ
焰の歌Ⅱ
火の山
3. 男声合唱 賛助出演 盛岡メンネルコール
指揮 佐藤 啓 司
毛銭の三つの詩 淵上毛銭 詩
約束
ぶらんこ
野原
最上川舟歌 山形県民謡
4. 混声合唱組曲 廟堂頌 長田恒雄 詩
大屋根
小さき鳩
寂かに
5. 交声曲 樹下燦々 阿南知也 詩
ピアノ 及 川 千鶴子

<指揮者・ピアニスト・役員>

<団員名簿・出演者名簿>

< Sop. >		中及	村川	静千鶴	子子子
片島	岡山	保子	川矢	美子	子子子
金沢	山沢	順子	田山	房佳	子子子
佐藤	藤池	節子	山山	明	子子子
菊中	村川	節子	井		子子子
堺清	川	恭光	藤		子子子
< Alt. >		藤三	沢河	寛郁	子子子
阿八	部重	喜子	近江	静怜	子子子
小大	原和	裕光	河林	伶総	子子子
本吉	郷田	陸淳	小照	賀津	子子子
盛盛	合田	郁夕	高菊	ケ禎	子子子
広川	村	敏			子子子
< Ten. >		根菊	田池	幸正	悦康
尾吉	形田	阿松	部田	正国	司晃
福小	野寺	近	藤		男
佐々	々々				
矢矢	木吹				
< Bas. >		牛千	越葉	了隆	恂昭
金佐	矢藤	照	井		一
吉	田				
	久五				
	郎				

常任指揮者	千葉了道
ピアノ	海老原彬子
委員	尾形村
副委員	福中
庶会	藤
パートリーダー	長務計
	Sop.
	Alt.
	Ten.
	Bas.

<主な活動> 昭和43年 1968年

- 5/16(木) 練習中十勝沖地震の余震(震度4)
7/18(木) 第3回定期演奏会「清水脩の夕」

北声会合唱団第3回演奏会

清水 脩 合唱の夕

指揮 千葉 了 道

賛助出演 盛岡メンネルコール

指揮 佐藤 啓 司

1968. 7. 18 (木) PM 6:30

場所 岩手教育会館

作曲者 清水 脩氏 について——

大阪天王寺の真宗大谷派寺院に生まれ、大阪外語大学卒業後、昭和12年東京音楽学校選科入学15年には、同校フランス語講師をつとめた。同年毎日新聞社音楽コンクールで「花に寄せたる舞踊組曲」が第1位に入賞し、作曲家としてすぐれた作品を世におくった。

職場への音楽普及および指導と創作、楽譜出版に力を注ぎ、後にカワイ楽譜社長として日本人の合唱曲の普及に力を入れている。又、全日本合唱連盟の設立に参画し、38年に理事長となり現在にいたる。

主な作品として「月光とピエロ」、「宮城野ぶみ」、「むかしばなし」「農民の歌」、「若者の歌」の他、歌劇、交響曲など広範囲にわたっている。

去る6月23日、招かれて北声会の練習にまいりました。私の作品ばかりの演奏会をというので、私は期待に胸ふくらませて出席しました。正直のところ、私はおどろきました。午後1時から夜8時までの長時間の練習でしたし、なが旅の後でもありましたが、全く疲れというものを感じない充実した時間を持つことが出来ました。今日になって、その時の事をふりかえっています。どうやらその原因は指揮者千葉了道君の、合唱を愛する、あたゝかい、だが、その中にきびしさをたくわえた人柄が、この合唱の核となっていることにあるのに気がつきました。東京などには、千にも余る合唱団がありますが、北声会ほど「大人の合唱団」は、なかなか見つかりません。合唱といえば「若さ」を売り物にしたものが多い中において、北声会は、その若さプラス「成熟」といった感じで、それだけに音楽的表現の振幅が大きいのです。もし、そこに改良すべき問題点があるとすれば、卒直に言って、プラス・アルファが欲しいだけです。ではそのアルファとは何かと問われると、明確には答えられないもどかしさを私は感じます。強いていえば、音楽のふくらみとでもいえようか、又表現のひだとでも云えようか、そういうものです。しかし、それも練習量を増加することによって解決出来るほどのことで、6月23日の時点では、少しばかり時期が早すぎ、私のこの様な判断はややせつちかといえるかも知れません。

恐らく今夜のステージではそういう点も、きれいに解決され、知性と情熱にあふれた演奏がひれきさされていると確信しています。

北国の人口18万の都市に、美しく咲いた音楽の花、それは北声会です。どうかいつまでも、その花を咲かせ続けて下さい。御成功を祈ります。

7月7日

ごあいさつ

指揮者 千葉了道

「形は一応出来ているが、人を感動させるにはまだまだ……」

これは、今回の演奏会のため、御指導下さった清水脩先生の、樹下燦々御指導の第一声である。

確かに楽譜通りに音を追いかけて行くことだけでは音楽ではない。それは音楽以前の問題であるが、勿論この難関を突破しなければ、音楽に近づく事が出来ないのである。

あの御指導の一日は長い間合唱の指導をして来た私には、相変らずこの難関から抜け出せぬ自己の非力をあらためて認識した日であり、又それは、すべて指揮者の責任である事を、きびしく教えて下さった恩師沢崎先生を偲ばせ、忘れかけていた芸術追求の意慾を再びかきたてられた日であった。

それから一ヶ月、会員も私も懸命の練習をした。今回の演奏会は今までにない練習を重ねた結果開かれたと私は思っている。

北声会は御承知の通り様々の職業人の集りである。然し乍らアマチュアだという事が、演奏の不出来の逃げ口上になってはならない。

プロの真似をする必要はないが、アマはアマらしく芸術の追求にきびしくなければならない。

北声会も三回目の発表会を持つことになった。三度目の正直という。なんとかして自らも感動し皆様にも感動して戴ける様な演奏をして見たい。そして又発足当時の念願であった北国の合唱団らしさも出して行きたいものである。皆様の温い御声援を感謝し又心からお願ひ申し上げます。

盛岡メンネルコールについて

北声会合唱団

盛岡メンネルコールは、今年で発足14年目をむかえた合唱団で、定期演奏会やコンクール参加など広く活躍されておられるので、県内はもち論、広くその名が知られております。創立者の野崎哲郎先生から、バトンを引きつがれた、木村、佐藤両氏と創立当時からずっと歌い続けられたメンバーで作り上げられる力づよく、美しいハーモニーは、魅力的です。今回「清水脩合唱の夕」をもつにあたり、特に賛助出演を、お願い致しました。今後とも合唱を通じて、お互いの向上を目ざし努力するつもりであります。

一層の御支援をお願いいたします。